

# ウクライナ避難者支援

## のための情報共有会議

### — 第2回議事メモ

日時：2022年7月15日（金）18：30～20：00

開催方法：オンラインzoom

参加者：54名

\* 団体、個人名については敬称略にて掲載しております。

# 挨拶、会議の趣旨、開催経緯

あいち・なごやウクライナ支援ネットワーク／認定NPO法人レスキューストックヤード 代表理事 栗田暢之

すでに各地域で様々な支援が実施されています。それぞれが大切な取り組みです。

そのうえで、

- ・ 官民が持てる情報を共有しましょう。
- ・ 互いの過不足を補い合いましょう。
- ・ 共に連携・協力し合い、より有益な支援につなげていきましょう。

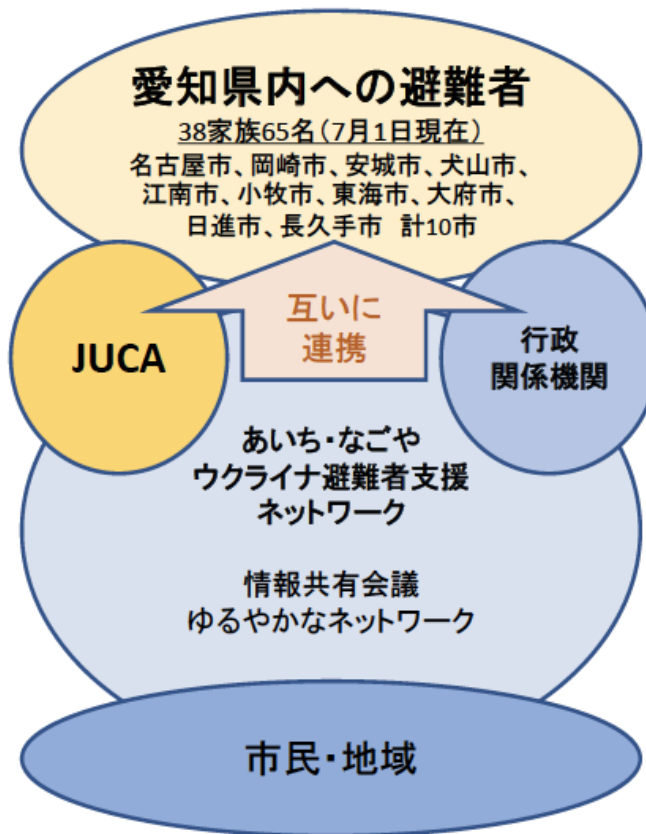
「暮らし」とは、

衣食住・モノ・お金・仕事・教育・医療保健  
福祉・心のケア・コミュニティ・言語・・・  
緊急的、そして中長期的な視点が必要

「みんなの願い」は、

避難者「一人ひとり」のいのち・暮らしが守られること

行政・JUCA・支援団体等による支援  
地域を基盤とする支援



# 挨拶、会議の趣旨、開催経緯

あいち・なごやウクライナ支援ネットワーク／認定NPO法人レスキューストックヤード 代表理事 栗田暢之

## ＜情報共有会議「第1回目」で確認したこと＞

- ・提供型支援より、必要なときに地域や就職先などその場その場で相談に乗れること。緩やかにつながり、ニーズに応じた支援ということを共通の着地点にしたい。
- ・行政、専門職、民間、個人・・・できること・できないことが違う。できないことはカバーし合い、横の連携を広げることによって、避難者一人のために力を合わせる事が大事。

## ＜1回目以降の動きと今後の取組＞

- ・避難者の方々のニーズを聞き取りつつ、企業や支援者からPCや衣類、野菜、自転車等たくさんのご協力を頂いた。
- ・避難世帯が多い名古屋市のシーズ、ニーズの調整をしている。
- ・避難者と信頼関係を醸成したうえで、戸別訪問や交流会を実施したり、地域ごとに相談体制を確立し、一人一人の「いのち・暮らし」が守られる支援をしたい。

# あいち・なごやウクライナ避難者支援ネットワーク

認定NPO法人レスキューストックヤード 事務局 種村

## <ネットワークとしての取組>

- 支援調整：ネットワークでつながりのある団体や企業からの物資支援（野菜・家具家電・生活物資等）
- イベント（100均お買い物ツアー、パッチワークを作ろう）＊高齢の避難者からニーズあり
- 避難者の個別対応
  - 生活支援物資の自宅へのお届け
  - 行政機関への同行支援
  - 引っ越しに向けた必要家電等の調達サポート

## <名古屋市支援登録窓口としての取組>

- ・ 支援登録件数 企業/団体34件  
個人109件
  - ・ うち、マッチング件数 企業/団体8件  
個人11件
- 物資13件/託児5件/言語ボランティア1件/運搬ボランティア1件（引っ越し手伝い）
- ・ イベント実施（太鼓イベント招待、23人参加）

## <課題>

- 避難者の方々が、日本の生活（特に真夏の状況）に必要な物資のイメージができていないので、ニーズを出していただきと伝えても、うまく出してもらうことは難しい。（物資を見て初めて、欲しかった！となることもある）また、例えば文化背景の違いにより、「アイロン台」と言われてもイメージするものが異なる。
- 避難者によって情報にアクセス出来る速さに個人差があり、一律で支援情報を流しても情報へのアクセスが良い方ほど早く必要な物資を手に入れられる状況がある。（個別情報の把握が必要である）
- 託児ニーズは子どもの体調にも左右され、突発的である。
- 支援者とつながっていない避難者と身元引受人が孤軍奮闘されている。
- 登録件数が落ち着いてきている。1日0～1件程度。

# JUCA (NPO法人日本ウクライナ文化協会)

理事長 川口リュドミラ氏 副理事長 榊原ナターリヤ氏

## <取組>

- ・みなさんのおかげで、避難者は日本語学習や仕事をがんばっている。
- ・避難者の状況として、住居が見つかったり、生活に慣れてきたりしている。
- ・梅雨時期の過ごし方や食べ物を教える取り組みをした。

## <課題>

- ・体調を崩さないように、エアコンなどの冷房機器や、栄養ドリンクなどの必要性が高まっている。
- ・今後も日本語学習を続けたい。8月は暑いので、9月からスタート予定。現在は基礎レベルなので、もう少しレベルの高いクラスを開設予定。
- ・仕事に必要な資格取得のためのサポートも必要（エステサロンなど、働きたいという要望がある）
- ・子どもたちの様子：当初はすぐに帰国予定だったが、3か月が過ぎて、日本での就学・進学の高まりがきている（3人くらい大学入学の検討をしているが、年度途中のため入学時期の検討も必要。）

## <取組>

- ・生活一時金の申請受付を始めた（1世帯20万円）3人以上世帯は一人増えるごとに10万円増。（寄付金にて実施）住民票など証明書類が必要。
- ・すでに20世帯38名の受付をした方に対し、今月中には支払える見込み。
- ・日本語学習支援（公益財団法人名古屋YWCAが実施）
- ・8月末からスタート、15回予定。授業の内容は、今後よく検討する。
- ・日本語学習支援のためのタブレットとSIMカード配布（寄付金にて実施）
- ・その他、寄付物品を配送することを予定している。名古屋市やRSYが苦勞していると聞いているので、支援が無駄にならないように考えている。今後、相談したい。

# 名古屋市

国際交流課 西川氏

## <これまでの取組>

- ・生活支援（支援給付金、市営住宅の提供、市営住宅入居支度金、光熱水費一時金、支援物資の提供）
- ・心のケア（つどいの場の開催）
- ・相談窓口（名古屋国際センターでの常時対応、通訳用タブレット：ウクライナ語・ロシア語導入）
- ・マッチング（市民の希望を登録する制度：RSY委託）
- ・情報提供（名古屋市生活ガイド：ウクライナ語版製作）

## <今後の取組>

### 【継続】

- ・「つどいの場」の開催
- ・支援登録窓口の運営

### 【新規】

- ・個別相談体制の構築（通訳等同行支援）
  - \* 現在、名古屋市内の避難者33名
- ・文化交流イベントの実施

## <課題>

- ・個別具体的な相談が増えている（例：日本の大学に進学したい、就職）
- ・継続支援のための寄付募集

# 長久手市・長久手市国際交流協会

たつせがある課 上杉氏

国際交流協会 伊藤氏

## <取組>

### ●長久手市

・最初は、住民登録の手続きの際に、市民課やNIAが同席し、翻訳等のサポート、教育委員会にも事前に連絡し連携できるようにした。市から一時金1人10万円支給。

・物資支援の申し出やメディアから問い合わせがあった際に市が窓口となり、本人に確認しながらという体制をとってきた。

### ●長久手市国際交流協会（NIA）

・身元引受人は、もともと事業等でつながっていた方。スムーズに受け入れができた理由と思う。

・日本財団の申請サポート（漢字の問題）

・社協とつなぎ、お米、ランドセルなど支援してもらうことができた。

・会員から、直接避難者の支援になる募金したいという声があり、募金を始めることになり生活支援金として渡す調整をしている。

・外国籍児童のための日本語サポート要員を元々学校に派遣していたが、早い段階で、学校から毎時間いてほしいというニーズがあった。毎時間は難しいものの日本語を覚えさせる支援ではなく、学校生活を楽しく過ごせる支援をとという方針でサポートしている。

## <課題>

・就労：特定の職種に就きたい気持ちがあるったが、今は別の希望があり、見守っている。

・身元引受の方が、子どもの持ち物チェックからすべてやっているの、ストレスが溜まっているよう。

NIAに来てくれた際に最近どう？と聞くようにしている。

・夏休みの過ごし方について心配しており、公民館で宿題を見ようようなボランティアを協力依頼。



# 株式会社コケナワ

代表取締役 荅縄氏

## <取組>

- ・3月に在日ウクライナ大使館より相談があり、一般からの問合せ対応や支援のマッチング等を行ってきた。
- ・今後、大手企業と連携して、お弁当や季節に応じた衣料品の提供、また医療機関・薬局等と連携した健康面でのサポートも検討中。
- ・アウトソーシング企業と連携し、電話で翻訳ができるサービスも提供予定。
- ・テーマパークへの招待等もしていきたい。
- ・いずれ、ウクライナ現地の支援もしていきたい。

## <課題>

- ・当初、日に30件程度の支援申し出があったが、7月は一桁程度となっている。
- ・支援状況の発信強化が必要（「デジタル大使館」というWEBサイトを作成し、需給の見える化を促進しているが発信が課題）
- ・パソコン、オンライン診療等、避難民が今何を必要としているか、もっと声を聞きたい。

# あいち・なごやウクライナ避難民支援ネットワーク

コアメンバー 土井氏 (NPO法人多文化共生リソース・センター東海 代表理事)

## <取組>

### 1. 国

- 1) 出入国在留管理庁  
一時滞在先における日本語教育
- 2) 出入国在留管理庁・文化庁  
オンライン日本語教育
- 3) 文化庁  
「地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」  
→都道府県・政令市に追加補助  
「つながるひろがるにほんごでのくらし」  
→6/30～ウクライナ語・ロシア語追加

### 2. 自治体・国際交流協会

- 1) 寄付金等を原資に日本語学習支援の**拡充**
- 2) **既存**の日本語教室（自治体・協会事業）で受け入れ

### 3. 民間（ボランティア団体）

- 1) **既存**の日本語教室で受け入れ
- 2) ウクライナ避難者限定で**既存**の教室を**拡充**
- 3) ウクライナ避難者限定で**新規**教室開設

## <課題>

- ・ ニーズやレベルが様々で対応が困難  
1 教室ではやりきれない
- ・ 教材選びや教え方に不安を抱えている  
教室間の情報共有が必要
- ・ 一時的なのか、今後も継続すべきか  
見通しが立たない
- ・ 受け入れ時期の調整が困難  
ターム開始前には断るケースも
- ・ 就労支援は荷が重い  
普段からやっていない
- ・ 自治体・協会からの財政的支援がない  
自治体・協会の責任は？
- ・ 就労後の学習継続が困難  
企業の責任は？
- ・ 生活相談への対応が困難  
どこまですべき？
- ・ 他の教室に通い始めて、来なくなった  
地域住民との接点がなくなることの不安

# 情報共有・質疑応答

## ◆就労について：

- 名古屋外国人雇用サービスセンター（栄）にて、毎週水曜にJUCAの川口リュドミラさんが働いている。ハローワークが利用しやすくなると思うので、ぜひ活用してほしい。また、就労により日本語学習が途切れるという心配については、オンライン等の手段を活用してほしいと伝えたい。
- 避難者の方は、家事代行の仕事をしたというニーズはあるか？→企業から介護求人の情報が寄せられているが、責任問題等もあり、関心のある人は少ない。

## ◆物資ニーズ：

- 大手企業と連携し、パソコンを避難者に貸与する場合の検討をしている→ニーズは仕事用、子どもの学習用としてもかなり高いが、タブレット貸与など他の支援もあるので、かぶらないように検討したほうがよい。
- 支援団体が避難者の戸別訪問時に「手土産」として生活用品などを持っていくことを想定している。そうした場合の物資を（株）コケナワでは提供していただくことも可能か→事前登録制で可能。送料は当社で負担している。

# 情報共有・質疑応答

## ●高校生年齢の避難者の状況：

- 「外国人枠」を設けている大学もありその枠で入学できるのでは？→ウクライナは高校までの課程が11年のため、通常であれば、日本の大学に進学できないが、文科省が特例で認めている（参照URL：[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/koutou/shikaku/1380756.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/shikaku/1380756.htm)）ので、ウクライナでの過程が終わってれば、すぐに進学可能となっている。
- 大学受験や進路選択について、大人のアドバイスを必要としている。10代の避難者は補助金の申請なども1人でこなしているとう例もありすごいストレスが溜まっているのではないかと。機会がないと自分から声がけできないと思うので、支援者から声がけするようにしている。少し落ち着いてきたからこそ、ストレスや個別事情が露呈してくる時期。

# 情報共有・質疑応答

## ◆小中学生年齢の避難者の状況：

●ウクライナのオンライン授業が行われていて、今は夏休み。9月から新年度がスタートする。ちゃんと出席しないといけないので、中学生年齢の子どもの中には、日本の学校と同時平行になった子どももいた。逆に、ウクライナが夏休みに入ってから、日本の学校に入学した子どももいた。いつまでオンライン授業が続くのかわからず、先の見通しが立たない。

●日本の学校に通っている子ども。兄弟姉妹といっても、一方は楽しんでいるが、一方は学校では自由に話せないから行きたくないといっている子どももいる。その対応に母親が困っている。学校から配布されるプリントの数が多い。グーグル翻訳でなんとか理解しようと頑張っているが、毎日のことなのでストレスになる。ウクライナにはない持ち物が多く（給食袋など）どこで買ったらいいかわからない。細かいことではあるが、そうした生活ひとつひとつのサポートが大事。

## 情報共有・質疑応答

- 小学校の初期指導教室に通っている子ども。一番難しかったのが、今後の見通し。どのようなタイミングで帰国するのか、それとも、日本に定住する方向で学習を進めるのか。現地の情勢から帰国は厳しいと思い、日本語を習得する方向で進めている。もう一点、心のケアについて。初期指導教室以外の給食や掃除の時間にクラスに戻り、学校貸与のタブレットを使いながらコミュニケーションをとっていて、少しずつ馴染んできているよう。夏休みをどう過ごしてもらうかが課題。母国語で家庭の中でほっと過ごせる1ヶ月という理解も大事。
- 身元引受人として、家族ぐるみで公園や外食に行ったりしている。避難者の祖父母がウクライナで爆撃の激しい地域に住んでいるので恐怖を感じているよう。しかし、日本人には話してもわからないだろうと思われるところがあり話してくれていない。子どもたちの心に影を落としているのではと気がかり。同じウクライナの方と話せる機会を作りたい。

# 情報共有・質疑応答

## ◆その他情報共有

- ロシアによるウクライナ侵攻に関して、ウクライナからの避難者の中でも、様々な考え方を各人がもっていることを留意しておく必要がある。
- 避難者は、まったく文化が違う場所に来て、大変なストレスやトラウマを抱えている。身元引受人が親戚や兄弟姉妹の場合でも、ストレスから誤解が生じたり、言い合いになってしまうこともある。日本はマナーが大変厳しい文化のため、あまり厳しく言わないでほしい。身元引受人へのサポートも考えたほうがよい。
- ウクライナ避難者を支援する司法書士有志の会を立ち上げたが、活動を模索している。法律相談以外も何でもやりたいという気持ちはあるので、連携していきたい。
- 大学関係者。愛知県内の大学で学生が募金等動いているので、学生の関心やボランティア活動をサポートしていきたい。
- 言語支援について。外国人が少ない地域に住んでいる避難者は、電話での通訳サービスが大変助かると思うが、（株）コケナワの言語支援サービスは無料で利用可能か→可能。